

川口高校進路だより

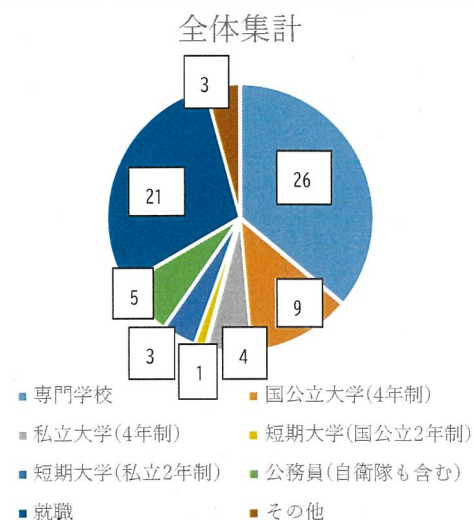
ミ・チ・シ・ル・ベ

川口高校進路指導部
第4号
令和7年11月11日

第3回「進路希望調査」結果



10月に実施された、第3回進路希望調査の結果です。前回の結果と同様、進学希望者が多いことがわかります。これは全体集計になりますが、学年によって進路希望の内訳は大きく違います。これは学校生活を送るにつれて、「自己理解(周りから自分がどう見られているかも含む)」や、「自分の能力・適性・個性の理解」が深まった結果でしょう。その理解を深めるためには、毎日の学校生活を充実させていくことが大切です。特に1・2年生は、よりよい学校生活になるように、いろいろなことに一生懸命取り組んでいきましょう。



就職・進学どちらにも役立つ！

面接で聞かれやすい質問5選



面接では、あなたの「考え方」「努力の姿勢」「目的意識」が見られます。
下の質問をもとに、自分の言葉で答えを考えてみましょう。

- ① 自己紹介をしてください。
- ② 高校生活で頑張ったことは？
- ③ あなたの長所と短所は？
- ④ なぜこの道を選びましたか？
- ⑤ 将来、どんな人になりたいですか？



〇コツ:「経験→学び→今後どう活かすか」の流れを意識すると、どんな質問にも強くなります！



第4回 城戸 孝幸 先生



なぜ、勉強するのか？

進路に関することで、他の先生のように、高校時代のことや進路指導部として皆さんに立派なことを言えないので、高校時代(long time ago)のダメな私について書こうと思います。

進学した高校は、進学校でも受験校でもなく、自宅が山の中にあったので自転車通学できる一番近い学校を選択しました。当時1学年6クラスで、普通科5クラスと実業系1クラスの学校でした。学校の雰囲気として、大学・短大・専門学校への進学よりも就職校であったような記憶があります。勿論、進学者の為に課外や模擬試験等を実施していましたが、私は、高校3年の夏休みまで一切受講していませんでした。帰りの SHR が終わればすぐに部室に向かい、体育館へ部活動の準備や練習に向かう生活を3年生の7月までしていました。

そこからが大変でした。3年の夏休み大学進学を夢見ていたので、初めての課外授業。配られたプリントや資料、何のことやら分からず、黙って授業を受け続けました。まして、模擬試験、チンプンカンプンでマークシートを適当に鉛筆で塗りつぶしていました。勿論、判定結果は最低の最低でした。受験勉強の仕方も分からず、ただ体育系の大学に行きたいと夢ばかり見ていました。

当時の部活動の顧問の先生に、体育系の大学に進学したいので推薦をもらえないかと相談したところ、「お前の身長では無理だろう」と一蹴され、競技成績の実績があるわけでもなく、それは十分分かっていましたが、一般受験では絶対受かるはずがないので、推薦だったらと安易な考えでいました。

受験は、私立の体育系を受験し落ちに落ち、卒業式後に受験できる大学があったのでそこを受験し何とか合格することが出来ました。

もう一度人生をやり直せるなら、高校生活でもっと勉強も部活動もやっておけば良かったと後悔しています。

ある本から抜粋した内容を、皆さんに伝えたいと思います。

大人は、なぜ「勉強しろ！」と言うのか？

大人になってからする後悔に挙がる上位に、「若いころもっと勉強をしておけばよかった」があります。大人になると、仕事をしなければならない、家事、育児をしなければならないなど、どんどん制約が多くなってきます。働きながら勉強することがどれだけ大変か、大人は身にしみてわかっています。だからこそ、学校の先生やあなたの親は「勉強しなさい」と、口うるさく言うのです。

大人は社会に出ると、学がないことによる限界や壁を何度も経験します。「学がない」とは、学歴がないことと、単純に知識や教養がないことを指します。そういった悔しさや理不尽さを大人は味わっているの、子どもには経験させたくない「勉強しろ」「勉強しろ」と言うのです。

他に、学ぶ力は生きる力に直結し、学ぶ力は自立する力を強めてくれて、学ぶ力はそこで学んで身につけた知識や力は、誰かを守る力にもなるのです。

10代のころは、勉強の大切さに、あまりピンとこないかもしれません。部活動もやったらよいし、友情も恋愛も、10代のうちにしっかりと楽しんだらよいと思います。それでもやっぱり、10代の勉強は、自分の身を助けて、生きる力に直結することを、必ず覚えていてください。